

基礎・基本の定着と個性の伸長に関する研究 (その1)

学 習 指 導 部

1. 研究のねらい

本研究は、学習指導の改善の視点から、個性重視の原則に立ち基礎的・基本的な内容を身につけさせる過程を通して、更にそれを基盤としながら一人一人の個性を生かし、伸ばす学習指導の在り方を追究しようとするものである。

2. 第1年次の研究(昭和62年度)

「基礎・基本」と「個性」に関する文献研究をもとに理論研究を進め、調査表を作成して教師対象の実態調査を行った。その結果、個人差に応じた指導の必要性や一人一人の「見方や考え方」を大切にす指導の重要性が明らかにされた。

3. 第2年次の研究(昭和63年度)

研究仮説を設定し、3教科で実践研究を行った。

(1) 「基礎・基本」、「個性」とそのかかわり

基礎・基本は学習指導における基礎的・基本的な内容にとらえた。基礎的・基本的な内容は、「学習指導要領における教科の目標・内容」ととらえ、更に児童生徒の実態に即して取り扱われる「教材の価値」を含むものとした。

個性は、児童生徒一人一人の持っている「よさ」としてとらえた。これはどの児童生徒にもかけが

えない特性として見いだされるものである。

基礎的・基本的な内容が定着し、一人一人の「よさ」が生かされ育てられていく過程において判断力、表現力、創造力、思考力等の能力(これら能力をジェクタビリティ^{*}と呼ぶ。)が深くかかわりを持つと考える。つまり、基礎的・基本的な内容の定着を図る過程において、把握した「よさ」を生かす場を設定すれば、ジェクタビリティが刺激され、それぞれが相互に作用し合うことによって、基礎的・基本的な内容の定着が図られ、「よさ」が伸ばされ育てられていくものと考えられる。

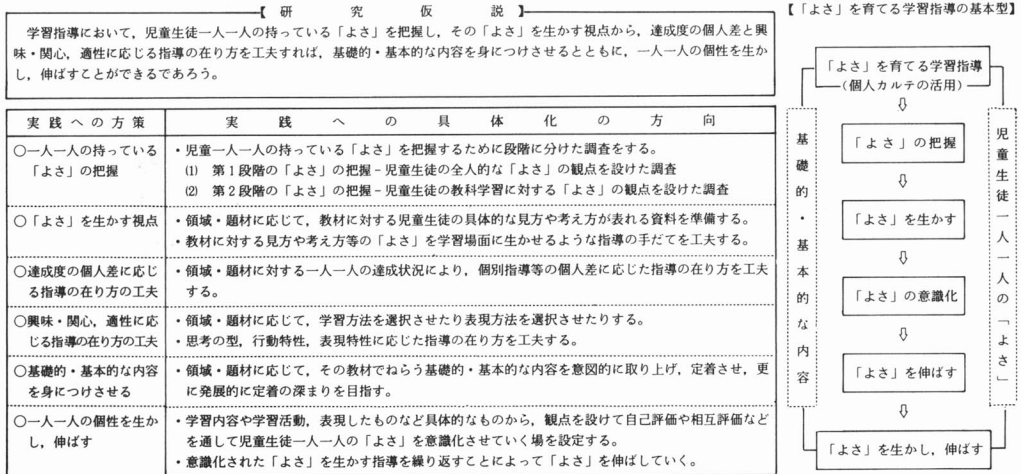
(2) 研究仮説と実践研究の方策

テーマにそった「研究仮説」を設定し、仮説を実践的に検証していくために3教科共通に下表のように「実践への方策」から「実践への具体化の方向」を位置付けて実践に当たった。

次号から3回にわたり、この手順を受けて「具体的な手だて」を明らかにした研究実践を報告する。

【研究協力校及び検証教科】

- 福島市立福島第二小学校(国語科)
- 川俣町立川俣南小学校(社会科)
- 福島市立吾妻中学校(数学科)



^{*}ジェクタビリティ(Jectability):造語 judgment(判断), expression(表現), creation(創造), thought(思考)のそれぞれの頭文字に-ability(能力)を合成したものである。